

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターさやのもり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和 7年 2月 26日 9:30 ~ 11:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 2名 地域委員 2名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

謝の気持ち・自己肯定感・貢献度の持てる子を育む ~子どもの心の理解~

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定したこども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

1. 自分大好き・友だち大好き・ありがとうがいっぱい ~子どもの心の理解~
2. エコ活動を通して資源の大切さを知ろう

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・園だよりで園の教育・保育目標、教育計画書にてグランドデザインを保護者へ配布し、伝えることで理解していただけるよう機会を設けてきた。 ・職員にも園内研修にて周知できる機会を設け、書面にて配布していった。振り返りシートにて重点目標を意識して取り組めるようにし、カンファレンスでも取り組みを報告した。 ・毎日の保育を振り返っていきと、いろいろな活動一つひとつが重点目標やグランドデザインに繋げることができた。 ・職員間で互いの長所を理解し合い、教育・保育の実践に結びつけられる機会ができた。	4	・職員が目標を理解し、子どもたちや保護者と接している様子が、参観会や行事の様子からよくわかった。 ・エコ活動への取り組みも、良い活動だと思う。そのような興味を小学校へも接続していけるとさらに良いと思う。 ・重点目標に対して職員個々の振り返りを実施していることや、職員の日々の実践に対してのフィードバックを人事考課という制度を用いて行っているということが、良かった。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	・おまかせシステムにて週案作成時に同時に月案も確認できるため、作成の際に年間から月案、週案の順に繋がった計画をたやすくした。 ・季節に合わせた環境づくりを心掛け、保育室内だけでなく、廊下や玄関などでも掲示を行い、季節の変化が感じられるよう配慮している。 ・コロナの影響により昨年度まで出来なかった活動も出来ることが増え、散歩などの活動も多く行くことが出来た。 ・行事に対しての活動が多く余裕がなくなる時期もあり、計画性をもった行事の設定が必要だと感じている。 ・クラスの室内環境や、活動の実践（食育）の中の反省もみられたため次年度の活動に繋げたい。	4	・園の玄関に入った時に、明るく温かい雰囲気を感じる。環境構成が素晴らしい。 ・太鼓については、例年、他の活動よりも評価が低いが、太鼓に触れる機会を持ちたいという教育・保育の観点からのねらいがあることを理解した。皆さんに理解をしていただけるようにこれからも継続し、取り組んでいることへの工夫を発信していただきたい。 ・様々な活動において、計画をもとに実践されていることが確認できた。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりへの理解を深め、個々を尊重し寄り添った教育・保育を意識しながら行っている。 ・異年齢や地域、世代を超えた関わりが昨年度よりも多く持てた。散歩では異年齢で出掛ける機会を積極的に設定した。また、どの学年も同法人内のさやの家（特養・テイ）へ出掛け、ご利用者と関わる機会を設けることが出来た。 ・職員の体制の中でフォローを必要とする場面が多く、個別の関わりが日によって変わってしまう時があったが、そのような状況でも職員同士で声を掛け合い協力しながら丁寧に関わるよう努めた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の参観行事を通じて、子どもたちがとても表情が良く意欲的に活動している姿を見た。 ・リズム発表会では、他の友だちと比べることなく、自信をもって取り組む様子があった。職員の声掛けや接し方も子どもたち自身の気持ちを大切にしている関わりだった。子どもたちの自己肯定感が高まる機会となっていると思う。 ・世代間交流への取り組みが、アンケートの数値が伸びているところからも理解されていると感じる。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの行事を通して、子どもの成長を保護者に伝えたり、月の掲示やブログを通して知らせたりして発信することが出来た。配布より配信が多くなったことで、見ていない方もみられるため、どの程度理解が深まっているか見えない部分があり、発信の難しさを感じた。 ・送迎時の挨拶を意識し、保護者からの相談や会話などコミュニケーションを丁寧に図るよう心掛けて取り組んだ。園全体として必要に応じて個別の面談を行い、より良い保育を話し合いながら進めた。 ・混成クラスに移行していくにあたり、行事の在り方や実施方法について、情報発信を工夫する必要があったと感じている。活動の意図や思いについて伝わりきらなかったことが行事のアンケートで確認された。情報の発信について丁寧に行っていきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、挙がっていた配信についての課題が今年度も引き続き上がっている。→配信後にどこまで周知していただいているか確かめていくことが難しいが、引き続きの検討事項として今後も考えていきたい。昨年度よりは、配信に関する質問や問い合わせは減ってきている。これからもご理解いただけるよう努めていきたい。 ・行事について、保護者の思いと園の思いで、どこを大切にしていけるか、難しいところもあると思うが、様々な意見を取り込みながら互いに寄り添った運営が大切ではないかと思う。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬくもんぼやブログの発信、玄関掲示などで地域に向けて園の様子や厚生会全体の取り組みなど知らせていくようにした。 ・緊急時にも連携できるよう、さやの家とお互いの避難訓練に参加する機会を設けた。 ・ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行った。 ・職員体制の関係で、支援センターが無人になってしまうこともあったため、改善していきたい。さやのもりの全事業を職員全体で回しながらフォローし合える体制ができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会での中学生のボランティア参加がとてもよかった。卒園児や、未就園児の運動会への参加も地域に開かれた園としての取り組みとして大切にしていきたい活動である。 ・子育て支援センターへも多くの方が来館している。地域の子育て拠点としての役割を發揮していただきたい。 ・小学校との関わりも、グラウンドに訪れていたく等、積極的に関わっていただきたい。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに重点目標を入れていくことで、自分の得意分野や個性を意識しながら取り組むことができた。 ・職員の得意な事を園児の前で披露したり伝えたりする中で年長を中心に子ども達へ浸透し、刺激を受けていたように感じた。 ・研修へ意欲的に参加していくことで、個々のスキルアップへも繋がりが、より良い保育へ繋げていく意識が高まった。 ・季節が感じられるような遊びや体験を行い、園全体で季節を感じ、興味関心を高めたいけるよう環境を整えた。 ・職員間で意見を出しやすい雰囲気があった。 ・相手に届くことの大切さを感じながら、気持ちの良い挨拶を意識して行うよう心掛けることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の雰囲気の良いさが、そのまま職員の表情に現れ、子ども達への丁寧な接し方へつながっていると感じる。子どもたちへの関わりは、一朝一夕でできることではない。日々の積み重ねが今年度の教育保育によく表れていた。